

平成三十年度

「高志の国文学」情景作品コンクール

入選作品集



平成30年度「高志の国文学」情景作品コンクール入選作品一覧表

○文芸部門

賞		題名	部門	学校	学年	名前	題材
知事賞	中学生	トランクは四次元ポケット	散文	射水市立小杉中学校	3	高堂 好花	まんが道
	高校生	ふるさとへの思い	散文	高岡高等学校	2	亀遊 堯子	人生の約束
家持青少年特別賞	中学生	立山	詩	富山市立西部中学校	3	平井 優衣	万葉集
	高校生	雪国に暮らして	散文	高岡高等学校	2	立野 野の花	万葉集

○文芸部門(散文・詩)部門

賞		題名	部門	学校	学年	名前	題材
金賞	中学生	タイムトラベラー 大伴家持	散文	富山市立北部中学校	3	柳瀬 優衣	万葉集
	高校生	弥栄節	詩	高岡工芸高等学校	3	藤森 ゆうか	弥栄節
銀賞	中学生	大伴家持が詠んだ越中万葉	散文	富山市立速星中学校	2	山屋 結佳	万葉集
		雪月花	詩	富山市立速星中学校	2	大井 七菜子	万葉集
	高校生	おばあちゃんの秘め事	散文	高岡高等学校	2	大坪 久茉莉	おおかみこどもの雨と雪
		私を変えてくれた本	散文	富山西高等学校	1	金澤 来瑠未	おおかみこどもの雨と雪
銅賞	中学生	「おおかみこどもの雨と雪」を見て	散文	富山市立北部中学校	3	小西 葉留菜	おおかみこどもの雨と雪
		身近な宝物	散文	富山市立北部中学校	3	田伏 楓奈	万葉集
		「富山の昔話」を読んで	散文	富山市立奥南中学校	1	今江 裕太郎	富山の昔話
	高校生	「つながり」でつながる未来	散文	高岡高等学校	2	前田 野乃葉	サマーウォーズ
		しんきろう	詩	高岡南高等学校	2	中谷 梨湖	ドラえもん
		おおかみこども、青春を行く	詩	滑川高等学校	1	藤縄 隼弥	おおかみこどもの雨と雪
佳作	中学生	心と人間	詩	富山市立速星中学校	2	浅野 天	バケモノの子
		自分探しの旅	詩	富山市立速星中学校	2	田中 美咲	おおかみこどもの雨と雪
	高校生	「未来のミライ」を見て	散文	富山高等学校	1	川岸 胡春	未来のミライ
		帰省	詩	高岡南高等学校	2	井出 莉咲	ドラえもん

○文芸部門(短歌・俳句)部門

賞		題名	部門	学校	学年	名前	題材
金賞	中学生	田中冬二(詩人)のふるさと生地を訪ねて	俳句	黒部市立桜井中学校	2	板澤 しほ	ふるさとにて(詩)
	高校生	巴御前	短歌	高岡南高等学校	2	成瀬 詩穂	万葉集
銀賞	中学生	大伴家持の短歌によせて	短歌	射水市立新湊南部中学校	2	浦上 裕貴	万葉集
		「劔岳 点の記」を鑑賞して	短歌	片山学園中学校	1	朝日 峻太	劔岳<点の記>
	高校生	立山のめぐみ	短歌	呉羽高等学校	1	浅野 滉太	風の盆恋歌
		無題	俳句	富山南高等学校	2	黒田 美都	劔岳渴仰
銅賞	中学生	大伴家持の短歌によせて	短歌	射水市立新湊南部中学校	2	渡辺 陽与	万葉集
		月夜に浮かぶおわらへの熱き思い	短歌	富山市立速星中学校	2	小西 穂乃花	月影ベイベ
		劔岳<点の記>を読んで	俳句	片山学園中学校	2	田尻 真一朗	劔岳<点の記>
	高校生	無題	短歌	八尾高等学校	3	荒山 奈優	万葉集
		海	短歌	富山高等学校	1	柴山 志穂	万葉集
友愛	俳句	大門高等学校	1	中川 葉月	人生の約束		
佳作	中学生	「おおかみこどもの雨と雪」を観て	短歌	射水市立小杉中学校	3	石井 春名	おおかみこどもの雨と雪
		無題	短歌	富山市立北部中学校	3	田近 志織	劔岳<点の記>
	高校生	あの日	短歌	富山高等学校	1	種本 栞	少年時代
		無題	短歌	八尾高等学校	3	四柳 葉優	万葉集

○美術部門

賞		題名	学校	学年	名前	題材
知事賞	中学生	戦争を知らない私たち	富山市立堀川中学校	2	立浪 海優	八月二日、天まで焼けた
	高校生	過去の恩恵	富山中部高等学校	2	佐藤 胡桃	劔岳
家持青少年特別賞	中学生	越の海の荒磯	富山市立堀川中学校	2	柴原 世奈	万葉集
	高校生	落日の故郷	富山中部高等学校	2	東 隼太郎	万葉集
金賞	中学生	内川	高岡市立芳野中学校	3	林岸 主真	人生の約束
	高校生	知らでや雪の白く降るらん	滑川高等学校	3	島田 幸苗	富山の伝説
銀賞	中学生	明りとおわら	富山市立速星中学校	3	高土井 葉月	月影バイベ
		紅葉の黒部峡谷	富山市立堀川中学校	2	石田 康一郎	黒部峡谷
	高校生	茜色に沈む	富山中部高等学校	2	大城 温美	とやまの癒やしパワースポット
		ホテルたちと見る夢	富山中部高等学校	2	志鷹 雄飛	とべないホテル
銅賞	中学生	私が描くドラえもん	富山市立速星中学校	3	高松 夏鈴	ドラえもん
		ブラックラーメン	富山市立速星中学校	3	前口 ちひろ	富山なぞ食探検
		成長	富山市立堀川中学校	3	砂澤 太壱	おおかみこどもの雨と雪
	高校生	ホテルイカ	高岡第一高等学校	2	川下 莉奈	富山湾を科学する
		約束の地	富山西高等学校	3	米道 美紀	真白の恋
		獅子舞	富山北部高等学校	1	内畠 菜穂	獅子舞ボーイズ
佳作	中学生	青春と鏡	富山市立速星中学校	1	大岩 真悠	アオハライド
		おわらの町並	富山市立速星中学校	1	坪坂 帆葉	月影バイベ
		立山にたたずむ壮大な鏡	富山市立堀川中学校	3	平井 理沙	おおかみこどもの雨と雪
	高校生	森をぬけたら	小杉高等学校	1	高木 菜名	おおかみこどもの雨と雪
		立山の空	富山北部高等学校	1	勝田 愛優	登山と人生
		共存	富山北部高等学校	2	中田 麗	おおかみこどもの雨と雪

○写真部門

賞		題名	学校	学年	名前	題材
知事賞	中学生	思い出	富山市立速星中学校	2	松井 志濃	恋仲
	高校生	日常	富山中部高等学校	1	伊藤 帆咲	RAILWAYS
家持青少年特別賞	中学生	雨の日の神社	富山市立速星中学校	2	吉田 真唯	映画「人生の約束」(万葉集ゆかりの地)
	高校生	奈呉の浦より君想う	富山中部高等学校	1	津田 桜香	万葉集
金賞	中学生	日本一の黒部ダム	小矢部市立津沢中学校	3	和世 貴都	黒部の太陽
	高校生	匠(たくみ)の技	富山高等学校	1	恒田 瀬奈	越中の伝説
銀賞	中学生	自然豊かな環水公園	小矢部市立津沢中学校	3	飯原 凌馬	映画「アオハライド」
		富山が誇る「ドラえもん」	小矢部市立津沢中学校	3	山本 将典	ドラえもん
	高校生	自然の展望台からやっほ～	泊高等学校	2	前田 朱里	富山わがまちここ一番
		迎え	富山東高等学校	2	橋本 怜奈	富山廃線紀行
銅賞	中学生	ドラえもんの広場	小矢部市立津沢中学校	3	沼田 晃士朗	ドラえもん
		無題	小矢部市立津沢中学校	3	辻 元太	風の盆恋歌
		チューリップの向こうに	氷見市立西條中学校	3	五十嵐 桜子	万葉集
	高校生	ひこうき雲	呉羽高等学校	1	大坪 芙羽	おおかみこどもの雨と雪
		緑輝く	高岡第一高等学校	3	砂川 未羽	街道をゆく 四
桜と・・・	泊高等学校	2	扇谷 優依	富山わがまちここ一番		
佳作	高校生	お空の入り口	泊高等学校	2	三田 華音	富山わがまちここ一番
		限りなく続く道	富山中部高等学校	1	土屋 詠子	劔岳点の記
		静かな小屋で	富山東高等学校	2	中川 莉那	沈黙の森

知事賞（中学生の部）

題材『まんが道』

トランクは四次元ポケット

射水市立小杉中学校三年 高堂 好花

前略、藤子・F・不二雄先生。私はこの夏、高岡美術館のふるさとギャラリーを訪れ、私と同世代だったころの先生の心に想いを馳せることができました。展示されていた生の原稿を見て、その繊細さに心が奪われました。また十四歳で作成された手作り冊子、「妖怪島」では、その完成度の高さに驚きました。まるで売られている本物の雑誌のように作られており、思わず足を止めて読み入ってしまいました。

しかし、最も印象に残ったのは、先生がまんが家を夢見て上京したときのトランクです。以前、まんが道を読んだときは、もう少し大きいトランクだと思っていましたが、実物はまんが道具しか入らないような小さな小さなトランクでした。この小さなトランクにまんが道具だけ詰め込んで富山を旅立った先生。しかし、目には見えない、先生の夢や希望も詰め込まれて、とても重かったのではないのでしょうか。

先生は、「自分はこのび太だ。」と言っておられたそうですね。ケンカも弱く、運動も得意ではない先生は、確かにのび太そっくりかもしれません。けれど、先生はドラえもんだと思います。上京されて、多くの失敗や努力を積み重ねて、まんが家として成功された先生は、たくさんキャラクターを生み出されました。パーマン、キテレツくん、オバケのQ太郎、ドラえもん……。これらを知らずに大きくなる子

どもはいません。私もドラえもんを夢中になって読んで、出てくる道具にワクワクしました。そして、これらのキャラクターは私だけでなく、私の両親の心の中や、今の子どもたちの心の中で、先生が亡くなってしまわれてからも、変わらず生き続け親しまれています。そしてこれからも受け継がれていくことに違いありません。タイムマシンはないけれど、キャラクターが、現在、過去、未来・自由に行き来をし、それらをつないでいることはとても素晴らしいことだと思います。

先生は、自分をのび太だと言われるけれど、やはり私にとって先生はドラえもんで、たくさんキャラクターを生み出した先生のトランクは四次元ポケットに見えてくるのです。

先生がトランクをもって上京する姿を想像するとき、トランクからのび太やドラえもんがのぞいて飛び出そうとしているように感じます。

ドラえもんの歌の歌詞に「ジャララ 僕の心に いつまでも輝く 夢 ドラえもん そのポケットで かなえさせてね」とありますが、先生はこのトランクでみんなの夢を叶えてくれますね。やはり先生は、私たちのリアルなドラえもんです。

私は、中学三年生で、これから進路を選択していかねばなりません。先生は、ひたむきにまんが道を突き進まれましたが、私の道はまだぼんやりしています。私の道がはっきりした時、私も先生のようなまっすぐな情熱をもち、突き進んでいけるよう頑張ります。そして私も誰かに夢を与えられるドラえもんになれたら嬉しいのです。

知事賞（高校生の部）

題材『人生の約束』

ふるさとへの思い

富山県立高岡高等学校二年 亀遊 堯子

この夏、私は地理の課題で、「二〇一八射水のみなど学習講座」（第一回）に参加した。映画「人生の約束」や「あなたへ」等のロケ地で知られ、多くの俳優たちが訪れる「内川」を、一度この目で見て、なぜこの地域が「日本のベニス」と呼ばれ、多くの映画やドラマのロケ地として利用されるのか知りたいと思ったからである。

高岡市街から万葉線を利用し、内川に到着すると、突然、目の前に映画やテレビで見た光景が広がった。「人生の約束」で見た曳山祭りの場面、テレビドラマ「恋仲」で主人公が火花を見る場面など、名シーンが鮮やかに蘇ってきた。また、海から心地よい潮風が吹き、潮の香りを胸いっぱい吸い込むと、まるで自分が映画やドラマの中にいるような気分になり、本当にここが舞台になったのだと少し誇らしい気持ちになった。

学習活動では、観光ボランティア「あゆの風」の方々の案内で周辺を散策し、内川の歴史を学んだ。庄川と越の潟をつなぐ内川は、かつては港であり、川幅も広がった。今は、富山新港がその役目を果たしており、内川の両岸は埋め立てられた。また、内川に架かる十五本の橋には、北前船をイメージした中新橋や、江戸時代の大火を教訓に架けられた湊橋（お助け橋）などがあり、それらの景観の美しさから「日本のベニス」と呼ばれているという。

川沿いには、かつての港町を彷彿とさせる建物が数多く残されていた。船で運んだ荷物を保管する内蔵がどの家にもあり、古くて頑丈な原型を今でもとどめていた。また、寺院や神社、地蔵が多く見られたが、それは、漁師の安全や大漁を祈願し、川での水難事故がないよう

祈りをささげるためだった。神社の中には、鳥居の高さが極端に低いものもあった。それは、船の中から参拝するのに適した高さにするためであり、家族の安全を願う気持ちは今も昔も変わらないことに胸を打たれた。

最も印象に残っているのは、「時代の変化への対応」である。かつてどの家にもあった内蔵は、港町でなくなった今、カフェや着物などの店舗や、トイレ等に再利用されている。昔の家の造りにあまり手を加えず、どこか懐かしく落ちついた空間になっており、地元の人々だけでなく、観光客もふらっと立ち寄りたくなる温もりを感じた。また、昔は漁で用いられていたが、今はプラスチック製に代わり、不要になったガラス製の浮き玉は、屋内の照明や、インテリア、ストラップとして新たな生命が吹きこまれ、美しく輝いていた。

真夏の日差しが照りつける中、案内してくださった「あゆの風」の方々は、仕事ではなくボランティアで活動されていた。観光案内や掲示板、パンフレットなどに工夫を凝らしながら、一人でも多くの人に来てもらいたい、この美しさを見てほしい、内川の素晴らしさを発信したいという思いで、この活動を行っておられた。この地元の方々の、内川についての広い見識と、地元への深い愛着こそが、ロケ地誘致の成功のカギなのではないかと感じた。

映画「人生の約束」に出演された、俳優の西田敏行さんは、内川を見て、「素晴らしいセットだ。」とおっしゃったそうだ。もちろん、セットではない。地域の人々が大切に思い、昔の街並みを受け継ぎ、新たな時代にそれらを生かしてきたからこそ、美しく、素晴らしい街並みが、今ここに存在するのだ。

社会が急激に変化するなか、こうした「ふるさとの宝物」をしっかりと守り、未来へ受け継いでいくのは、これから大人になる私たちの使命であると考える。ふるさとに愛情を抱き、その役目をしっかりと果たしながら、ふるさと富山のさらなる発展に貢献していきたい。

家持青少年特別賞（中学生の部）

題材『万葉集』

立山

富山市立西部中学校三年 平井 優衣

いにしえより

「神々の座」と崇めたる

若緑 残雪まとう

春の立山

濃き緑 夏雲背負う

夏の立山

紅に 色づき染まる

秋の立山

雪深き しんと静まる

冬の立山

遠くもあり 近くもある

美しき立山 今日も見ると

家持青少年特別賞（高校生の部）

題材『万葉集』

雪国に暮らして

富山県立高岡高等学校二年 立野 野の花

私にとって、雪は孤独であった。

毛布の隙間から沁み込んでくる冷気に眠りをさまされた早朝。まだ太陽は昇らないのに窓の外が妙に明るい。一晩で降り積もった雪があまりやしく光を放っているのだ。むきだしの足からもう無い熱を奪い去る廊下。つま先がしびれている。玄関から外を見ると、世界は白く塗り潰されていた。まるで神様が失敗したカンバスを白紙に戻そうとしているみたいなお景だった。白紙、はくし、ハクシヨン。くしゃみが虚しく響く。うるさいほどの静けさに今さら気付く。暗さに慣れた目に白が焼きつく。家族は皆死んだように眠っている。そのまっさらな世界はどこまでも白く、美しく、厳かで、何故か私に足を踏み入れてはいけないのだと直感させた。どこにも行けない。音もしない。全てを覆い隠し、隔絶する。それが私の知る雪だった。

しかし、大伴家持は、雪に私とはまったく違う姿を見てこう詠んだ。
新しき 年の初めは いや年に

雪踏み平し 常かくにもが

この歌は、「新しい年の初めは、毎年ずっと雪を踏みならして、いつもこうして集まりたいものです。」という意味だそうだ。

声が聞こえた。人々のにぎやかな話し声が。それと同時に小さい頃に祖母に作ってもらったココアの甘さと腹からじんわりしみわたる

温かさを思い出した。同じ雪国に暮らしていたのにこうも違うのかと驚いた。この歌の中でも雪は冷たく、静かで、隔絶するものそのままである。されどもそこで終わらない。雪が冷たいからこそ、人々は温もりを求め身を寄せ合おうとする。静かだからこそ他人の声がよく聞こえる。話もはずむ。隔絶するからこそ会いに行けない人のことを思う。

人は、私たちは、冬を何度もそうやって過ごしてきたのだろう。千三百年も昔の大伴家持の時代から。いや、そのもつとずっと前のころから。そしてこれからも、人は寒さに弱いままでいるのだろう。あれほどまで絶対的な美しさでたたずんでいた雪は、いともたやすく踏み荒らされ、完璧さを失っていた。だが、不思議とそれまでよりもきれいに見えた。真っ白な雪にくっきり残った足跡は、誰かの、誰かに会いたいという気持ちの軌跡だ。また雪が降りつもれば、もしくは雪がとけてしまえばたちどころに消えてしまう、儂く、でも確かな軌跡。その軌跡の重なりが雪を優しく見せた。

インターネットで誰とでも気軽につながってしまう現代では、人々は胸の奥に人恋しさを隠してしまうのではないか。画面上のつながりに安心できないのは実感が伴わないからじゃないか。いつでも連絡がとれる今だからこそ、自分の足で会いに行かなくちゃいけないんだと思う。

そういえば、ふわふわの新雪を踏みしめる瞬間のぎゅっという鈍い音は、いつでも私をワクワクさせる音だった。忘れていたけれど、あの足の裏に伝わる感触が、私は、大好きだったんだ。

雪がもたらす幸福を、千三百年前から届いた三十一文字に教わった。はるか遠い昔でも人はつながりを求め、雪は淡々と降り積もっては溶けてゆく。そんな当たり前を、心の底から愛おしく思った。

【散文・詩部門】

金賞（中学生の部）

題材『万葉集』

タイムトラベラー大伴家持

富山市立北部中学校三年 柳瀬 優衣

どうしよう。夏休みの課題が進まない。今年は中学三年生。高校受験を控え、夏休みにこれまでの学習内容を復習しようとしているのだが、中々理解できていない単元が多そうだ。

特に古文。仮名遣いが今と違い読むのに苦労する。それに、情景が想像しづらい。高貴な歌人の詠んだ歌が、平凡な中学生である私に理解できるのだろうか。そんな文句をブツブツと口にしてしていると、突然、目の前が真っ白になった。眩しい光の向こうに、何か人影が見える。「おお！この町も随分と変わったものだ。」

誰だ、この男の人は。奈良時代の貴族が着た、見るからに重たそうな着物を身にまとっている。まるで、歴史の教科書から飛び出してきたような格好をしている。私は尋ねた。

「あの、どちら様でしょうか。」

「私か？私は大伴家持、という者だ。少しは名の知れた歌人なのだが、そなたは知っておるか？」

大伴家持。もちろん名前前は知っている。万葉集に最も多くの歌を載せ、富山を舞台にした歌をいくつも遺した。奈良時代を代表する歌人の一人である。ん？奈良時代？

「ところで、今は西暦何年なのだ？」

「二〇一八年です。」

「二〇一八年！私が生まれてから、千三〇〇年も経っておるのか。」

「千三〇〇年?!」

信じられないが、この人は、本当にタイムスリップしてきたのかもしれない。

「そういえば、そなた。さきほど、歌人の詠む歌は、理解できない、と口にしておったな。」

「はい…。歌人、というか、昔の人は今の人とは全く違う暮らしをしていて、私とは価値感がずれていると思うんです。」

「そなたは分かっておらんのだ。いつの時代も、人の心は同じだ。仕事柄、いろいろな時代を飛び回っておるので、よう知っとる。例えば、私の詠んだこの歌を見よ。」

家持さんの懐から、巻物が出てきた。いつも持ち歩いているのだろうか。

「玉くしげ 二上山に 鳴く鳥の 声の恋しき 時は来にけり」
情景が想像できない。いくつか知っている単語は出てきたものの、全体的なイメージがつかめない。

「すみません、家持さん。古文が苦手だと、歌のイメージがつかめなくて。」

「よいのだ。そなたにも分かるように説明するから。二上山は知っておるか？」

「はい。標高の高い山ではありませんが、立山のように、多くの人に親しまれていますね。」

「そうだ。そんな二上山で鳴く鳥の、声が恋しい季節になったな、という気持ちを込めて詠んだのだ。都にも同じ名前の山、二上山があった。越中の二上山を眺めていると、都が懐かしくなることもあった。」

二上山は、四季折々の草花が咲き乱れ、鳥の鳴く声が響きわたる山だ。ふと、鳥の鳴き声を思い出し、恋しくなるのは、家持さんと同じなのだ、と私は思った。

「素敵な歌ですね。家持さん。ただ、作者の家持さんと同じ情景が浮かんでいるかは分かりませんが。」

「わざわざ私に合わせることはない。人それぞれの感じ方があるのも、歌の面白いところだ。」

そうか。私の感じ方でいいのか。今まで難しく考えすぎていたようだ。「歌の魅力も伝わったことだろうから、私はそろそろ失礼するぞ。次の仕事に行かねば。」

家持さんがそう言うのと、また目の前が真っ白になった。

少しの間だったが、多くのことを学べた。これからも、家持さんの歌は、富山県民の心の中に生き続けるだろうと思う。

金賞（高校生の部）

題材『弥栄節』

弥栄節

富山県立高岡工芸高等学校三年 藤森 ゆうか

「タタラ踏み踏み やがえふ唄うや……」

えんやしややっしやい

夜更けの金屋を流す掛け声

えんやしややっしやい

心に刻まれた夏の追憶

四百年の時を越えて

受け継がれた技と調べが

板人たちの掛け声と息づかいが

私の一部になる

えんやしややっしやい

今年も聞こえる

郷土の子守歌

銀賞（中学生の部）

題材『万葉集』

大伴家持が詠んだ越中万葉

富山市立速星中学校二年 山屋 結佳

『婦負川の 速き瀬ごとに 篝さし』

八十伴の緒は 鶺鴒川立ちけり』

これは真つ暗な夜の婦負川の急流で鶺鴒たちが篝火を焚き、漁をし
るところを見て、家持が鶺鴒を越中で初めて目にしたので、その迫
力に心を動かされて、詠んだ歌です。きびきびと立ち回る姿に、勇ま
しい武人の姿が重なって見えたのでしよう。

この歌を読んで私は、毎年鶺鴒坂で五月に行われている鶺鴒祭は、昔
から代々行われてきたものだということを知り、おどろきました。私
が祭りで見えていた風景と似ているものを大伴家持が見ていたと考える
と、大伴家持に親近感がわきました。

ところで、大伴家持とはどんな人物だったのでしょうか。調べてみ
ると、家持は大伴氏の跡取りとして、貴族の子弟に必要な学問、教養
を早くからしっかりと学んでいたということが分かりました。幸せな
生活をおくっていたという風に感じますが、そうでもなく、十一歳の
時、母と死別、その三年後に父とも死別しています。また、三十歳を
過ぎ、越中から帰京した後の昇進はきわめて遅れ、また、橘氏と藤原

氏との抗争に巻き込まれます。家持は一族を存続するため、ひたすら
抗争の圏外に身を置こうとしますが、そうしたことで同族の信を失う
こともあり、一族の長として奮起しなくてはならないという責務と、
あきらめとの間を迷い続けていました。

私は、大伴家持はただ歌を詠んでいる人だと思っていましたが、調
べていくうちにいろいろな苦勞を乗りこえて生きてきた人だとい
うことが分かりました。富山に在る間に詠んだ越中万葉には、こんな歌が
あります。

『しな離る 越に五年 住み住みて』

立ち別れまく 惜しき初夜かも』

この歌は、越の国に五年間住み続けて、立ち別れることが惜しいと
いう気持ちがこめられています。他の歌にも、立山に降り積もった雪
を夏中見ても飽きないという意味の歌があります。大伴家持にと
って、越中国赴任は、ただの仕事ではなく、都から離れて、いろい
ろな自然の情景を見て歌を詠み、心を休めるものでもあったのかなと思
いました。

大伴家持の確認できる二十七年間の歌歴のうち、越中の五年間で詠
んだ歌の数は、残りの二十二年間で詠んだ歌の半数近くになるほどで
す。富山県はあまり注目される県ではないので、大伴家持がたくさん
の自然の歌を詠んでくれて、うれしいと思いました。そして、富山県
の誇りである美しい自然を大切にしていこうと思いました。

銀賞（中学生の部）

題材『万葉集』

雪月花

富山市立速星中学校二年 大井 七菜子

初春は咲きすさぶ

梅の花の中一つ枝折りては

ふと思ふ

これは誰に贈らうか

中秋は

いとめでたげなり名月に

趣を覚ゆ

静かなり夜

寒し冬の日

雪の積もりたる立山を

眺め出だす

この風光を共に見る人がな

常は思ふこの思ひ

いかにせむ

銀賞（高校生の部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

おばあちゃんの秘め事

富山県立高岡高等学校二年 大坪 久茉莉

「ばあちゃん、いってきます。」

鳴り響く蝉の声を後にして裏庭から元気な男の子の声が聞こえてくる。先日、五歳になったばかりの「空」だ。私の初めてのひ孫である。

ちようど今日のような青空の日に生まれたので、空と名付けられた。

私が最初にこの家に引っ越してから早八十年。あの頃は私も空のように野山を駆け回り、カエルやだんご虫を捕まえては家中にまき散らしていた活発な少女であった。空を見ていると、そんな自分の少女時代を思い出さずにはいられない。

毎年、夏になると、親戚中がこの家にやってくる。今でも車一台通るのがやっとの細く険しい山道を二十分程登ったところにある、築百八十年の一軒家だ。いつもは静かなこの家がこの時期だけは以前の賑やかさを取り戻す。私は子供や孫達を見ていると、ここで暮らし続けてよかったと心の底から思うのである。

しかし、私にはここで暮らし続けなければならない理由がもう一つある。娘達から、家を売って都会で一緒に暮らすよう勧められたことも一度や二度ではない。けれども、私は譲らなかつた。ここは、私と山へ巣立っていった弟にとっての原点であり、最愛の母と過ごした最後の場所であるからだ。

銀賞（高校生の部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

私を変えてくれた本

富山県立富山西高等学校一年 金澤 来留未

—おおかみとして生きるか、人として生きるか—

この本の主人公「花」は大学生の時に恋に落ち、彼がおおかみおとこである事を知りました。その二人の間に生まれたのが、おおかみの血と人間の血が混ざった「おおかみこどもの雨と雪」でした。

この物語は雨と雪の二人がおおかみとして生きるか、人として生きるか、その選択をする物語です。「選択」というものは私たちが生きている時間、人生において数えきれないほどあるものです。「何を着る」、「何を食べる」、「何をやる」などです。ですが、私がこの本から学んだのはそのような「小さな選択」ではなく、おそらく人生で数回しかないような「大きな選択」です。

「大きな選択」というのは、人生を左右する選択のことです。例えば、進路や結婚、仕事など人生においてそのような大きな選択をする時、ほとんどの人が真っ先に考えるのは、「自分の事」だと思います。

この道を選んで自分は幸せになるのか、自分のためになるのかと考えるのが普通だと思います。しかし、雨と雪は違っていたと思います。

私の考えですが、おおかみか人間かを選択する時、雨と雪は「自分」ではなく、「他の誰か」のことを考えていたように思えました。雪は「おおかみの姿でもう二度と誰も傷つけないから」であり、雨は「おおかみの姿で森を守りたいから」であり、どちらも「自分」という言葉ではなく、「誰か」の次に「自分」を考えて選択していて、初めてこの本を読んだときにとっても衝撃を受けました。

これからの人生において「選択」をする時、私は「自分」の事を優先して考えてしまうとします。けれども、この本を読んで学んだ「人を思いやる気持ち」と「選択の大切さ」を決して忘れずに行動していきたいと思います。

一行目に書いた文には、「家族のため」や「自分のため」など色々な文字が当てはまると思います。私は「家族」や「友人」を当てはめて胸をはれるような生き方をこれからしていきたいと思いました。

銅賞（中学生の部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

「おおかみこどもの雨と雪」を見て

富山市立北部中学校三年 小西 葉留菜

「おおかみこどもの雨と雪。」この映画には、他の映画にはない思い入れがあります。それは、この映画の舞台が私の住んでいる富山県だからです。また、この作品を作られた世界的に有名な細田守監督が、富山県出身だからでもあります。そして一番の理由は、この作品を見て得られたものが数多くあるからです。

私が「おおかみこどもの雨と雪」の中で一番印象に残っているのは、描写されている風景です。強い生命力を感じる、青々と茂った木。雄大に広がり、雲や山までも映すほど澄みきった池。どこまでも続く、白銀に輝いた雪。そのどれもが、思わず息をのむほど綺麗で、本当に実在するものなのかと疑うほどでした。この絶景は後世に伝え、いつまでも守っていかねばならないのだと思いました。

また、この作品を通して「ありのままの自分として生きる喜び」や「他人に認められ、受け入れられる喜び」を学ぶことができたと思います。人にはそれぞれの秘密や悩みがあるけれど、一人で抱え込まないで打ちあけてみることで得られるもの大きさは、人生を変える程

大きいのだと分かりました。また、自分がどんな人であっても認め、応援してくれる存在の大切さも知ることができました。私も、他人に左右されず、自分の意志をしっかり持って自分らしく生きていこうと思います。

また、雨と雪の「自分で自分の未来を決める姿」に心打たれました。私は今、中学三年生です。中学三年生ということは、受験生でもあります。私はまだ、将来の夢が決まっていません。だからこそ、「自分はどうありたいのか」や「自分は何をしたいのか」という明確な意志を持って、自分の行きたい高校を決めることが大切だと思います。そして、その目標に向かって後悔が残らない位に努力していこうと思います。

私は、「おおかみこどもの雨と雪」を見て、富山県の魅力を再発見することができました。特に、感動する程綺麗な景色は、富山県民として誇るべきものの一つであると思います。また「人としてのあり方」を学ぶこともできました。この作品を通して学んだことは、人生を通して大切な存在になると思います。つらいこと、苦しいことがあっても、「自分らしく生きること」を忘れずに生きていきたいです。

銅賞（中学生の部）

題材『万葉集』

身近な宝物

富山市立北部中学校三年 田伏 楓奈

英作文の題材としてよくこのようなものがでる。「自分の住んでいる県を紹介しよう」もしくは、「自分の町の魅力を伝えよう」

どのように書こうか考えたとき、自分のふるさとであるにも関わらずすぐ思いつかなかった自分に衝撃をうけた。それと同時に、自分が情けなくなった。

ある日、私はある一つの歌を知った。

「立山に 振り置ける雪を 常夏に」

見れども飽かず 神からならし」

この歌は、越中守に命じられて五年間越中国に在任していた大伴家持がうたった歌である。夏真っ盛りのこの時期に立山には降り積もった雪が消えることなく、きらきら輝いている。それを見続けていても見飽きることがないのは、立山が神の山だからこそであるのだろうか。立山を見た大伴家持の、感動して思わずうたったものがこの歌なのだろうと想像できる。

私たちにとってはこの風景は当たり前前にみえている。でも、豊富で

きれいな雪解け水、立山の壮大な存在感、そして暑さも忘れるくらいの何とも言えない爽快感がこの歌からこの情景が浮かんでくる。

この歌から溢れ出るような富山の魅力がとても伝わってくるのを感じた。また、富山だからこそ感じられる自然の魅力を大伴家持がキャッチしてくれていたことが嬉しかった。

この歌を理解してから、自分の恵まれた環境に感謝するべきだと心から思った。体の原動力である水分や困難を乗り切るパワー、清々しく美しい空気などを、得て生活できるのはこの土地でしか味わえない素晴らしいことだと思った。

また、私は富山県と他県との魅力の大きな違いに気付くことができた。それは、富山県全体がみんなに誇れるものであるということだ。有名なものを聞かれると――にある――が有名ですと答えるものが多いと思う。しかし、富山県は今自分たちがいる「ここ」こそが人々を魅了しているのだ。

それを気付かせてくれたのは大伴家持である。改めて気付いた富山の魅力を誇りに思いながら、世界へと発信していけたらいいと思う。

銅賞（中学生の部）

題材『富山の昔話』

『富山の昔話』を読んで

富山市立興南中学校一年 今江 裕太郎

小学三年の時、両親と一緒に本屋へ行った。「好きな本一冊、買ったげっちゃ。」と言われ、私は長い時間かかって、『富山の昔話』を選んだ。

冒険物や大好きな日本史の漫画などいろいろ候補があったにもかかわらず、なぜか、この本にひかれて買ってしまった。

買ったにもかかわらず、私はほとんど読まず、すっかりその本のことを忘れてしまったが、この夏休みに母から「中学生になったし本棚の整理したら？」と言われ、片づけている中、この本を発見した。

手に取って、読みすすめると、面白くて止まらなくなった。

私は年のわりに古い物が大好きで、この本には古い昔のふんいきが盛り沢山である。標準語と照らし合わせてみても、分からない言葉はもちろんなあったが、私は諦めずに、読み進めた。すると次第に、頭の中にイメージできるようになり、いつの間にか笑っていた。ドッサリ富山弁が溜まり、話がわかるようになりとても楽しくなった。

そんな中で私がとても笑った話は、「mamシの葉」だ。神通川の堤が切れ、大水になり太助じいはんは、ムジナとmamシをつかまえた。翌日、長いこと貯めた銭が失われ、賢いムジナとmamシは村の酒屋で

酒を飲んでいる者にmamシが足を噛み、mamシの葉をぬると、評判になって大繁昌したという話だ。昔の時代に、よく効く毒へびの葉があるとは。そして私の家の近くを流れる神通川なので想像しやすいのだ。川の流れる勢いを「ボンボコ」と勢いよく流れているのが分かる。きっと、著者は富山らしい表現や言葉を題材に話を描くことにより、読者に更に親近感がわくように工夫したのだと思う。

他に、「貧乏のさい銭箱」とう不思議な話も載っていた。貧乏なじいはん、ばあはんらが自分の家を掃除していると貧乏神が出現し、やしろを築いて奉ってくれば金持ちになると約束し、貧乏神がやしるへ来るようにと手紙を入れたので、参拝する人が大勢になった。不思議に思うことは、しゃべらないし姿も現さないのに、なぜ家に手紙を入れることができたのだろう。不思議すぎて何度も読み返してしまった。それほど、話が読者を引き込んでいるのだと思う。

文末に「語ってそうろう、語らいでそうろう」と意味が分からない富山弁もでてきた。他の昔話に出てくる「めでたし、めでたし」という意味なのかな？と語っているが、語ってそうろうという言葉はステキな言葉だなと思う。

テレビをつけていると、標準語が話されている。私はいつもいいなと思っていたが、この本を読んで、現在、私が住む富山の、田舎らしい言葉に、少し愛着がわいてきた。

さらに、富山以外の地方言葉にも少し興味が出てきた。県外へ出かけた時は、その土地の方言に耳をすませたいと思っている。

銅賞（高校生の部）

題材『サマーウォーズ』

「つながり」でつながる未来

富山県立高岡高等学校二年 前田 野乃葉

私は細田守監督の映画が好きです。監督が富山県出身で映画の舞台が富山だったり、舞台は違っていても、映画の中の風景に富山の景色が盛り込まれていたことを後に知って富山がとても誇らしく思え、ますます好きになりました。でも、私が監督の作品を好きな一番の理由は「家族」をテーマとしたものが多いからです。私の一番好きな作品は、『サマーウォーズ』という作品です。

陣内家という普通の田舎の大家族が、小惑星探査機を世界五百ヶ所以上のどこかの核施設に落とそうとする謎の人工知能から世界を救うという物語です。陣内家は当主の栄おばあちゃんのお誕生日に親戚一同が集まります。家族のつながりをとても大切にしている大家族です。

前田家もひいばあさんの誕生日に親戚一同が祝いします。それぞれどこか、いとこ、おじ、おば、みんなの誕生日を親戚一同でお祝いするので。また美味しいものをいただいたりしても、連絡網がまわり、みんな大集合です。だいたい総勢十四人ほどは集まるので、ホールケーキは細い細いケーキになります。高級牛肉のすき焼きも一口に一口としてたら、一口も食べれなかった！野菜しか食べてない！なんてことにもなります。それでも、みんなでおいしい食事を取ること、同じ時間をたわいもない話をして過ごすことがとても楽しいのです。食べる時だけに集まるわけではありません。祖父のしている農業のためにビニールハウスを建てたり、苗箱の泥入れ、田植えの手伝い、長芋掘り、ジャガイモ掘り、さつま芋掘り、集まる行事でいっぱいです。みんなびっしょり汗をかき、それでもおいしいのです。

私には栄おばあちゃんが言った言葉で、とても好きな言葉があります。

「家族同士で手を離さぬように、人生に負けないように、もし、辛い

時や悲しい時があっても、いつもと変わらず、家族みんな揃ってご飯を食べること」

「一人一人ができることをすればいいのさ」

栄おばあちゃんは、みんなが食事をして、話をして、お互いの良さを知り、お互いを信じていることが大切なのだということ、一人一人のできることは限られていてもみんなが力を合わせると和の数以上の力になるということも伝えたかったのだと思います。

一番年齢が下のいとこは、まだ小学二年生。明るく、ゲームが得意で、ひょうきんなムードメーカー。高校二年生の私が連れて歩いていると母親に間違えられるなんてしょっちゅうです。一番年齢が上の前田家当主のひいばあは九十四歳。みんなの仕事ぶりを総監督として、しっかりと見守ってくれます。

年齢も性格もみんなそれぞれ違うけれど、お互い助け合っている前田家は、世界を救った陣内家と同じくらい素敵な家族だと思います。いつも私を信頼して励ましてくれる家族がいることは、私の大きな支えとなり、どんな時も自分を信じて頑張ることができます。

そして私の住む田舎は、部落全体が大きな家族のようなものです。お互い声を掛け合い、助け合い、とても「つながり」を大切にしています。インターネットの普及でいつでも、世界中の人とパソコンの中でつながれたとしても、それは「つながり」とは言えないのではないのでしょうか。

スマートフォンが発達で、連絡網は『前田家グループLINE』へと変貌を遂げ、一回で集合をかけることができ、便利になったけれど、それはあくまでも連絡手段に過ぎず、LINEは会話の代わりには成りえません。

どんなに文明が発達しても、みんなが集まってみんなで会話して、ご飯を食べて、たくさん笑い、たくさん働きたいのです。

「心のつながり」をこれからも大切にしていきたいと思います。

銅賞（高校生の部）

題材『ドラえもん』

しんきろう

富山県立高岡南高等学校二年 中谷 梨湖

おなじに見えて少し違う

あっちの世界

海の香りと日の光

こっちの世界

もう一人の私は

どう生きているんだろう

ゆがんでいるのは

どっちだろう

こっちとあっち

本当のわたしは

どっち？

銅賞（高校生の部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

おおかみこども、青春を行く

富山県立滑川高等学校一年 藤縄 隼弥

人とは違う

これが私の姿

隠すことはない

普通じゃない

それが私の美しさ

恐れることはない

私はこれで私

変わることはない

消えることもない

少し背のびをしよう

あの入道雲のように

前に進もう

少しの勇気で

佳作（中学生の部）

題材『バケモノの子』

心と人間

富山市立速星中学校二年 浅野 天

弱い心を作り出すのも人間だ
悲しい心を作り出すのも人間だ
憎しみの心を作り出すのも人間だ

何も見えない心の闇に支配されたとしても
その闇の中に月明りのような
一筋の光をさすことができるのも
また人間だ

立ち止まらずに
その光に向かって歩いてゆこう

楽しくて笑い
嬉しくて笑い

幸せの光が一分でも長く続くよう
今日も私は歩き続ける

佳作（中学生の部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

自分探しの旅

富山市立速星中学校二年 田中 美咲

「自分らしさ」って何だろう
人より優れているもの 誰よりも上手なこと
それも自分らしさかもしれない

でも、もっと身近にもある
自分の得意なこと 自分の苦手なこと
自分の好きなこと
それもすべて「自分らしさ」かもしれない
人と違うことを周りは反対するかもしれない
人を悲しませてしまうかもしれない
それでも、たくさんの人との関わりの中に
「自分らしさ」があるのかもしれない

私たちは日々「自分らしさ」を探しながら
生きている

この旅は、これからも
ずっと続くだろう

佳作（高校生の部）

題材『未来のミライ』

「未来のミライ」を見て

富山県立富山高等学校一年 川岸 胡春

初めてこの映画を見たとき、私はふと昔の自分

を思い出すことが何度かあった。主人公と昔の自分を重ねて見ていたからだろうと思う。主人公が成長するにつれて自分も成長できた気がする。

この物語の主人公は4歳の男の子くんちゃん。くんちゃんの元にもまれたばかりの妹がやってくる。しかし、くんちゃんは妹に両親の愛情をうばわれたと感じ、戸惑い、八つ当たりをしてしまう。そんな時、くんちゃんは庭から過去や未来へタイムリープしてしまう。そこで様々な人と出会い「家族の愛」を知る。家族の温かさを感じられる作品だった。

この映画を見て、私は真っ先に自分の弟を思い出した。弟は私よりも自分を周りの人に伝えることが上手で、自分をうまく表現できなかった私は弟に嫉妬した。しかし、当時の私も弟に八つ当たりをしたことも何度もある。家族だからこそ近くにいい分いい所も嫌いな所も見えやすいというのも事実だ。しかし、家族であることには変わらないし、家族でしか分からない弟のよさも私は沢山知っているとと思う。改めて家族一人一人の良さを見直し、感謝を伝えたくなくなった。

「ほんのささやかな事が積み重なって今の私達を形作ってるんだ。」

未来のミライちゃんがくんちゃんに命のつながりを伝えるセリフだ。私にも両親がいて、祖父母がいて、その祖父母にもまた両親がいるように、そのつながりは絶えることがない。しかし、私はこの映画を見て、今私がここに存在していることの有難さを忘れていたことに気づいた。もし両親が出会っていなかったら、結婚していなかったらと「もしも」を考えてしまう。私たちが当たり前前に生活している毎日は、私たちのご先祖様が生きてきた証なのだ。ご先祖様が生きて、私たちへとつないでくれた命。そしてこれからもつながれていくことを再認識した。

この作品を通して、私たちは「命のつながり」の中にいるということだ。くんちゃんと未来のミライちゃんが冒険した「ファミリートリ」の描写も「命のつながり」を連想させた。そして「自分」が今ここに存在するには「家族」の存在が不可欠であったということだ。家族がいるから「私」が「自分自身」であるという証明になるのだ。私も将来、妻になり、親になるときがくるだろう。いつの日か、幸せな家庭を作り上げたいと思っている。もちろん、幸せなばかりではないだろう。しかし、家族ならば、辛いことも支え合って乗り越えられると思うのだ。そして、未来へと命をつないでいきたい。「未来のミライ」は私に「命のつながり」を教えてくれた。

佳作（高校生の部）

題材『ドラえもん』

帰省

富山県立高岡南高等学校二年 井出 莉咲

久しく見えぬ立山は

昔と変わらぬりんとした立たづまいで

久しく歩く その道は

昔と変わらぬ田畑がどこまでも広がっていて

久しく作ってもらう 夕食は

昔と変わらぬ安心できる母の味で

何も変わらないのに 特別だった

何も変わらないのは 特別だった

ああ、富山に帰ってきた

【短歌・俳句部門】

金賞（中学生の部）

題材『ふるさとにて（詩）』

田中冬二（詩人）のふるさと生地を訪ねて

黒部市立桜井中学校二年 板澤 しほ

金賞（高校生の部）

題材『万葉集』

「巴御前」

富山県立高岡南高等学校二年 成瀬 詩穂

文字ほそき

冬二の詩碑や

夏木立

武士の

一所担いし

紅一点

矢番い刀抜くは

君がためなり

銀賞（中学生の部）

題材『万葉集』

大伴家持の短歌によせて

射水市立新湊南部中学校二年 浦上 裕貴

庄川の

くれないそまる

そのそばを

スキップでいく

黄色いぼうし

銀賞（中学生の部）

題材『劔岳（点の記）』

「劔岳 点の記」を鑑賞して

片山学園中学校一年 朝日 峻太

頂の

古き時代の

錫杖に

主の運命

思いめぐらす

銀賞（高校生の部）

題材『風の盆恋歌』

「立山のめぐみ」

富山県立呉羽高等学校一年 浅野 滉太

久遠なる

せせらぎ聞かば

立山の

峰を仰ぎて

降る雪を見ゆ

銀賞（高校生の部）

題材『劔岳湯仰』

無題

富山県立富山南高等学校二年 黒田 美都

六花舞い

茜に染まる

劔岳

銅賞（中学生の部）

題材『万葉集』

大伴家持の短歌によせて

射水市立新湊南部中学校二年 渡辺 陽与

夢幻から

現に醒めれば

よみがえる

ふれることすら

できぬ苦しき

銅賞（中学生の部）

題材『月影ペイベ』

月夜に浮かぶおわらへの熱き思い

富山市立速星中学校二年 小西 穂乃花

秋の夜

胡弓の音色に

誘われて

夢かうつつか

坂踊りゆく

銅賞（中学生の部）

題材『劔岳へ点の記』

劔岳へ点の記を讀んで

片山学園中学校二年 田尻 真一朗

雪背負い

試され人の

強き意志

銅賞（高校生の部）

題材『義経伝説』『万葉集』

「無題」

富山県立八尾高等学校三年 荒山 奈優

義経が

岩を背に佇ち

立山を

仰げば心の

雨晴れてゆく

銅賞（高校生の部）

題材『万葉集』

「海」

富山県立富山高専学校一年 柴山 志穂

岩瀬野の

海より見える

立山や

高志の昔も

変わらぬものと

銅賞（高校生の部）

題材『人生の約束』

友愛

富山県立大門高等学校一年 中川 葉月

友よとて

綴る寂寥

天に届かず

佳作（中学生の部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

「おおかみこどもの雨と雪」を観て

射水市立小杉中学校三年 石井 春名

凜として

大地見守る

立山に

つよく優しい

ははが重なる

佳作（中学生の部）

題材『劔岳（点の記）』

「無題」

富山市立北部中学校三年 田近 志織

白と白

無限に広がる

未踏の地

貫く信念

折れぬ心と

佳作（高校生の部）

題材『少年時代』

「あの日」

富山県立富山高等学校一年 種本 栞

いつまでも

揺れる白帽

去る列車

脳裏へ駆ける

我が夏の日々

佳作（高校生の部）

題材『万葉集』

「無題」

富山県立八尾高等学校三年 四柳 葉優

家持の

藤詠む純の

心もて

我はヤマフジ

君に捧げる

【美術部門】



知事賞(中学生の部)

「戦争を知らない私たち」<題材「八月二日、天まで焼けた」>

富山市立堀川中学校2年 立浪 海優



知事賞(高校生の部)

「過去の恩恵」<題材「剣岳」>

富山中部高等学校2年 佐藤 胡桃



家持青少年特別賞(中学生の部)

「越の海の荒磯」<題材「万葉集」>

富山市立堀川中学校2年 柴原 世奈



家持青少年特別賞(高校生の部)

「落日の故郷」<題材「万葉集」>

富山中部高等学校2年 東 隼太郎



金賞(中学生の部)

「内川」<題材「人生の約束」>

高岡市立芳野中学校3年 林岸 主真



金賞(高校生の部)

「知らでや雪の白く降るらん」<題材「富山の伝説」>

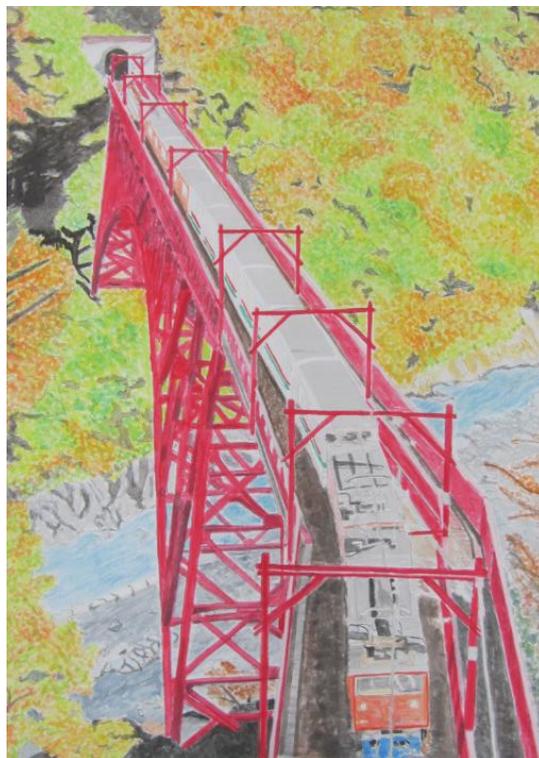
滑川高等学校3年 島田 幸苗



銀賞(中学生の部)

「明りとおわら」<題材「月影ペイペ」>

富山市立速星中学校3年 高土井 葉月



銀賞(中学生の部)

「紅葉の黒部峡谷」<題材「黒部峡谷」>

富山市立堀川中学校2年 石田 康一郎



銀賞(高校生の部)

「茜色に沈む」<題材「とやまの癒しパワースポット」>

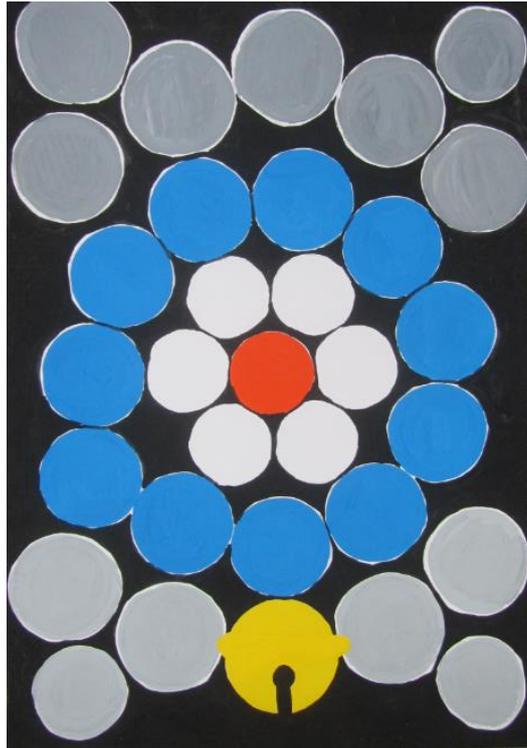
富山中部高等学校2年 大城 温美



銀賞(高校生の部)

「ホタルたちと見る夢」<題材「とべないホタル」>

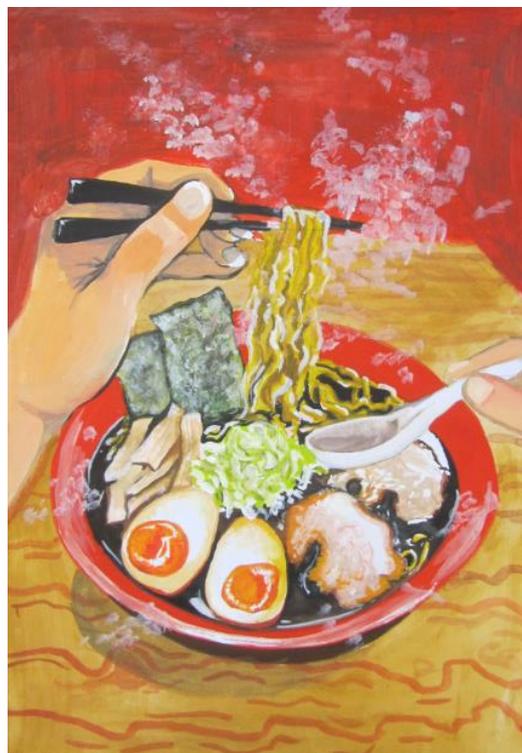
富山中部高等学校2年 志鷹 雄飛



銅賞(中学生の部)

「私が描くドラえもん」<題材「ドラえもん」>

富山市立速星中学校3年 高松 夏鈴



銅賞(中学生の部)

「ブラックラーメン」<題材「富山なぞ食探検」>

富山市立速星中学校3年 前口 ちひろ



銅賞(中学生の部)

「成長」<題材「おおかみこどもの雨と雪」>

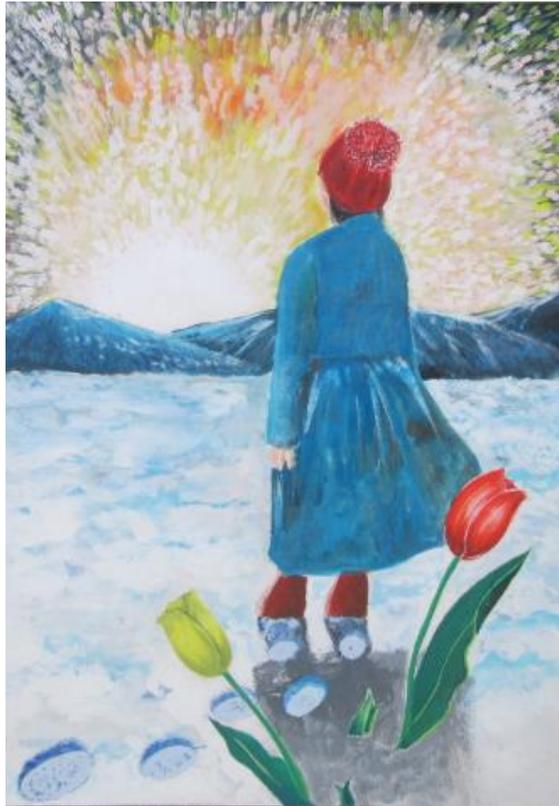
富山市立堀川小学校3年 砂澤 太壱



銅賞(高校生の部)

「ホタルイカ」<題材「富山湾を科学する」>

高岡第一高等学校2年 川下 莉奈



銅賞(高校生の部)

「約束の地」<題材「真白の恋」>

富山西高等学校3年 米道 美紀



佳作(高校生の部)

「真白の恋」<題材「真白の恋」>

富山北部高等学校1年 内島 菜穂



佳作(中学生の部)

「青春と鏡」<題材「アオハラド」>

富山市立速星中学校1年 大岩 真悠



佳作(中学生の部)

「おわらの町並」<題材「月影ペイペ」>

富山市立速星中学校1年 坪坂 帆葉



佳作(中学生の部)

「立山にたたずむ壮大な鏡」<題材「おおかみこどもの雨と雪」>

富山市立堀川中学校3年 平井 理沙



佳作(高校生の部)

「森をぬけたら」<題材「おおかみこどもの雨と雪」>

小杉高等学校1年 高木 菜名



佳作(高校生の部)

「立山の空」<題材「登山と人生」>

富山北部高等学校1年 勝田 愛優



佳作(高校生の部)

「共存」<題材「おおかみこどもの雨と雪」>

富山北部高等学校2年 中田 麗

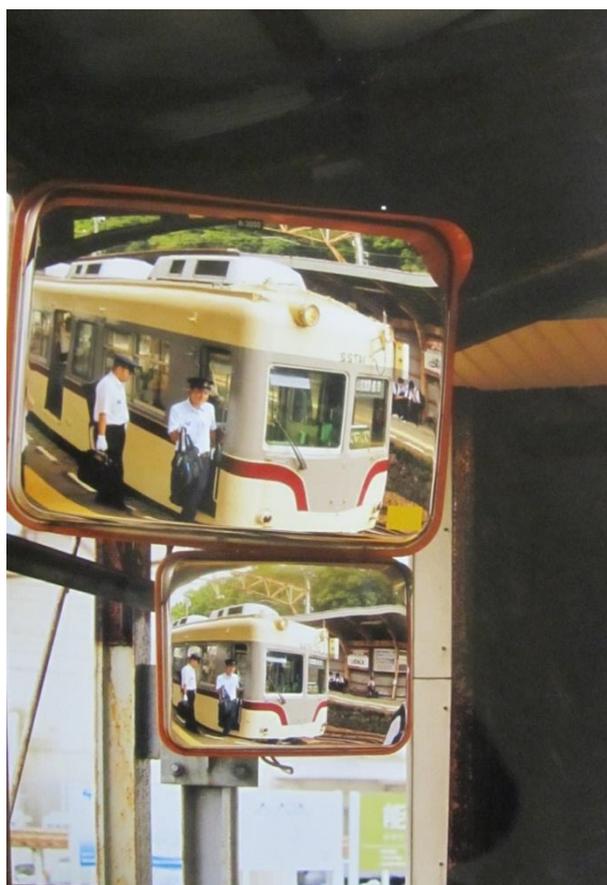
【写真部門】



知事賞(中学生の部)

「思い出」<題材「恋仲」>

富山市立速星中学校2年 松井 志濃



知事賞(高校生の部)

「日常」<題材「RAILWAYS」>

富山中部高等学校1年 伊藤 帆咲



家持青少年特別賞(中学生の部)

「雨の日の神社」<題材「映画 人生の約束<万葉集ゆかりの地>」>

富山市立速星中学校2年 吉田 真唯



家持青少年特別賞(高校生の部)

「奈呉の浦より君想う」<題材「万葉集」>

富山中部高等学校1年 津田 桜香



金賞(中学生の部)

「日本一の黒部ダム」<題材「黒部の太陽」>

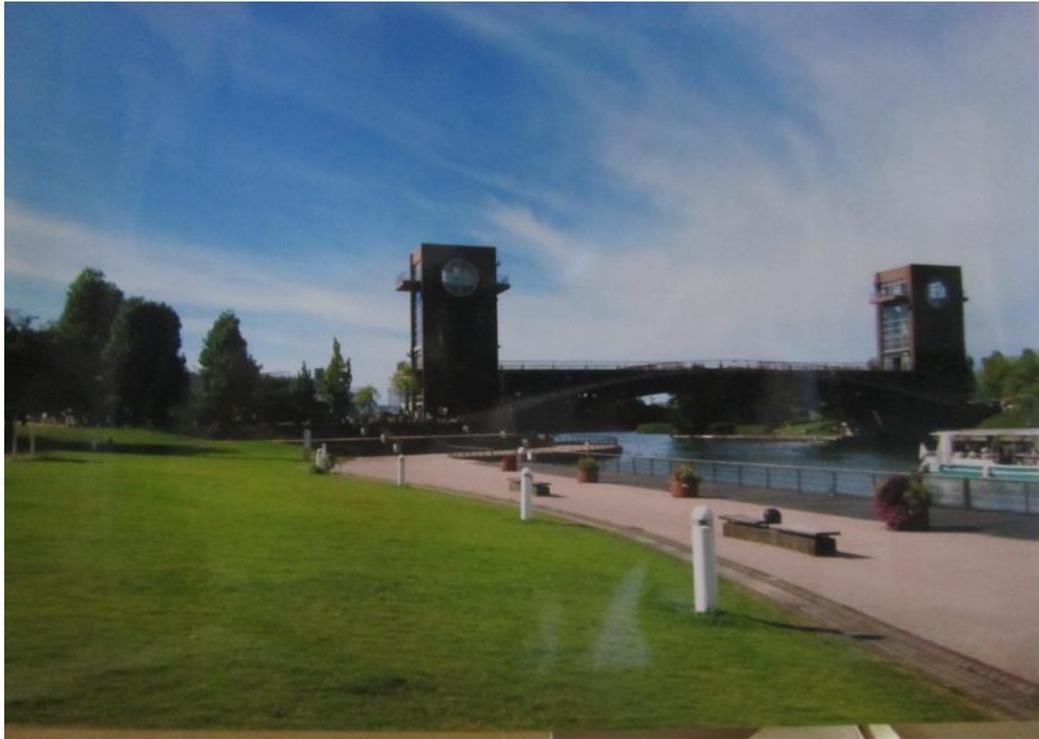
小矢部市立津沢中学校3年 和世 貴都



金賞(高校生の部)

「匠(たくみ)の技」<題材「越中の伝説」>

富山高等学校1年 恒田 瀬奈



銀賞(中学生の部)

「自然豊かな環水公園」<題材「映画 アオハライド」>

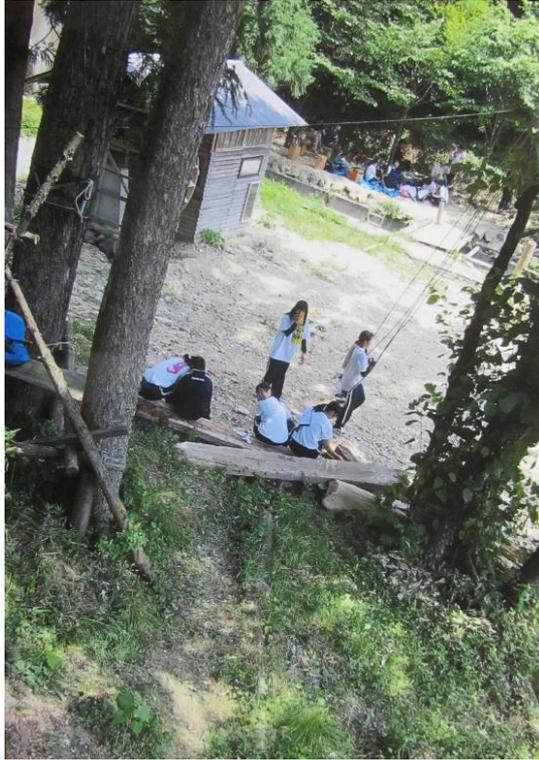
小矢部市立津沢中学校3年 飯原 凌馬



銀賞(中学生の部)

「富山が誇る『ドラえもん』」<題材「ドラえもん」>

小矢部市立津沢中学校3年 山本 将典



銀賞(高校生の部)

「自然の展望台からやっほ～」<題材「富山わがまちこ一番」>

泊高等学校2年 前田 朱里



銀賞(高校生の部)

「迎え」<題材「富山廃線紀行」>

富山東高等学校2年 橋本 怜奈



銅賞(中学生の部)

「ドラえもんの広場」<題材「ドラえもん」>

小矢部市立津沢中学校3年 沼田 晃士朗



銅賞(中学生の部)

「無題」<題材「風の盆恋歌」>

小矢部市立津沢中学校3年 辻 元太



銅賞(中学生の部)

「チューリップの向こうに」<題材「万葉集」>

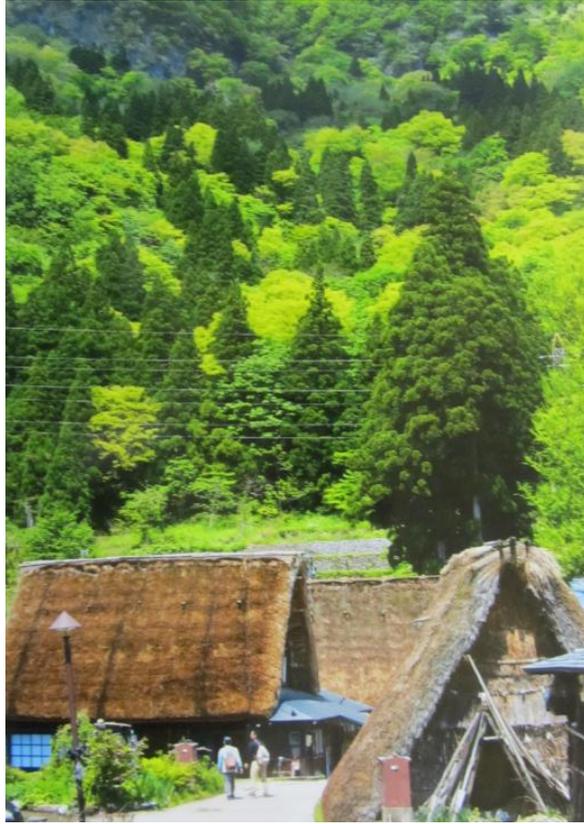
氷見市立西條中学校3年 五十嵐 桜子



銅賞(高校生の部)

「ひこうき雲」<題材「おおかみこどもの雨と雪」>

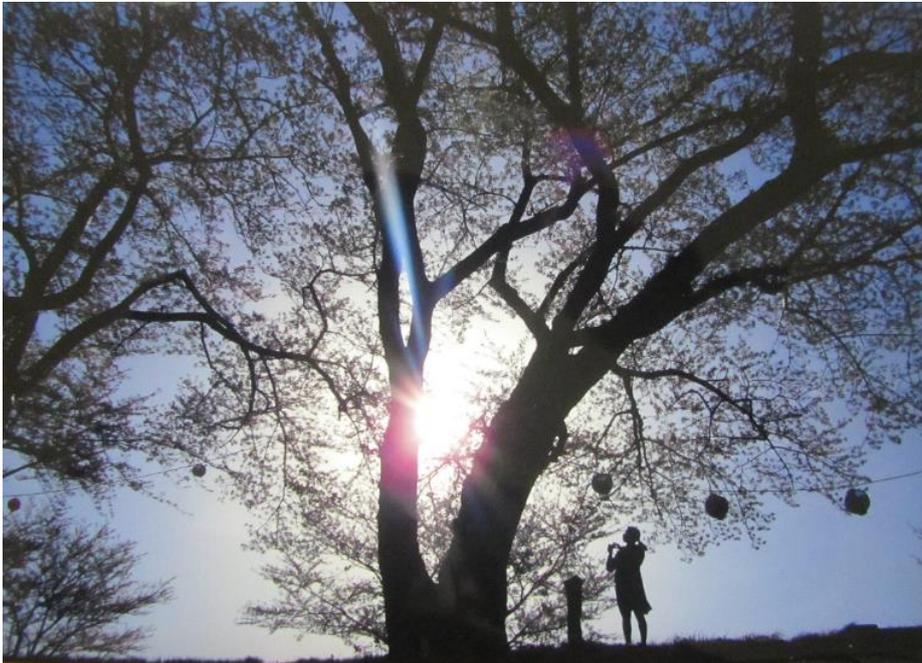
呉羽高等学校1年 大坪 芙羽



銅賞(高校生の部)

「緑輝く」<題材「街道をゆく 四」>

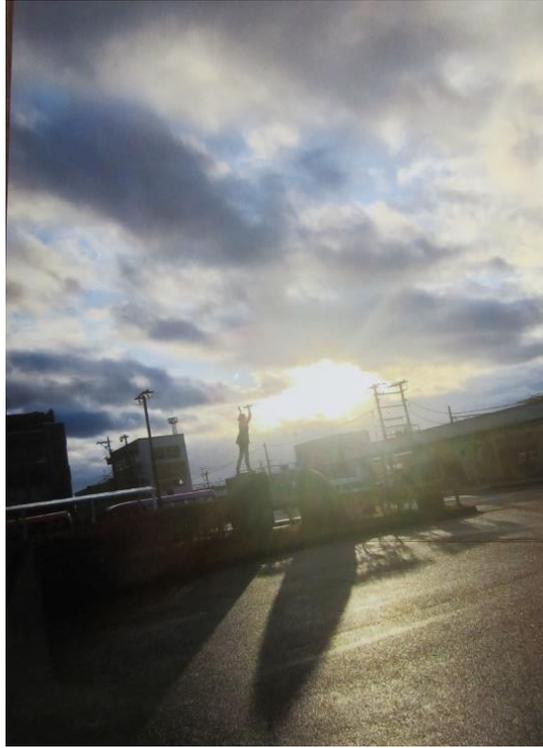
高岡第一高等学校3年 砂川 未羽



銅賞(高校生の部)

「桜と・・・」<題材「真白の恋」>

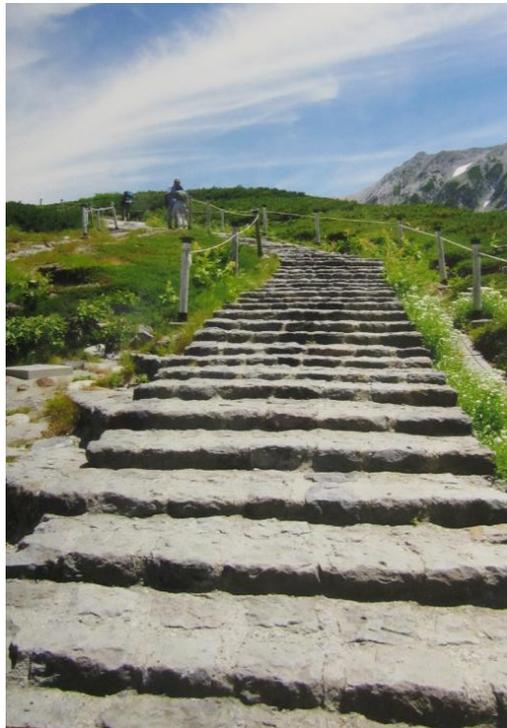
泊高等学校2年 扇谷 優依



佳作(高校生の部)

「お空の入り口」<題材「富山わがまちこ一番」>

泊高等学校2年 三田 華音



佳作(高校生の部)

「限りなく続く道」<題材「劔岳点の記」>

富山中部高等学校1年 土屋 詠子



佳作(高校生の部)

「静かな小屋で」<題材「沈黙の森」>

富山東高等学校2年 中川 莉那

